

## VI 緑視率の状況

人間の視野に近い画角を想定して撮影された写真を用い、その中に占める樹木等の緑の面積占有率から算出される緑の量を緑視率という。

緑被率が視野外も含めた平面的な緑の量を測る尺度であるのに対し、緑視率では立面的に視野内に占める緑の量を対象とする。緑被率の低い地域でも、接道部など視野に入りやすい場所に公園樹や街路樹といった緑地が多く存在すれば、緑視率は高くなる。緑視率は緑の豊かさを実感する度合いを測るための指標といえる。

### 1. 調査地点の選定

調査地点は、調査区域にかけたメッシュ（網目 140m×140m）に近い道路の交差点とした。調査地点数は 212 点とし、図VI-1 にその位置と調査番号を示す。これは、第 5 次緑地実態調査（昭和 59 年）から継続して調査している地点である。なお、特別区域には調査地点を設けていない。

### 2. 他区との比較

緑視率は緑の量を把握するための手法として用いられるが、比較的特殊な方法であり、まだ事例としては少なく、各区によって調査方法や調査地点が統一されていない。公園付近や街路樹、接道緑化が多い箇所では必然と緑視率が高い数値となる。

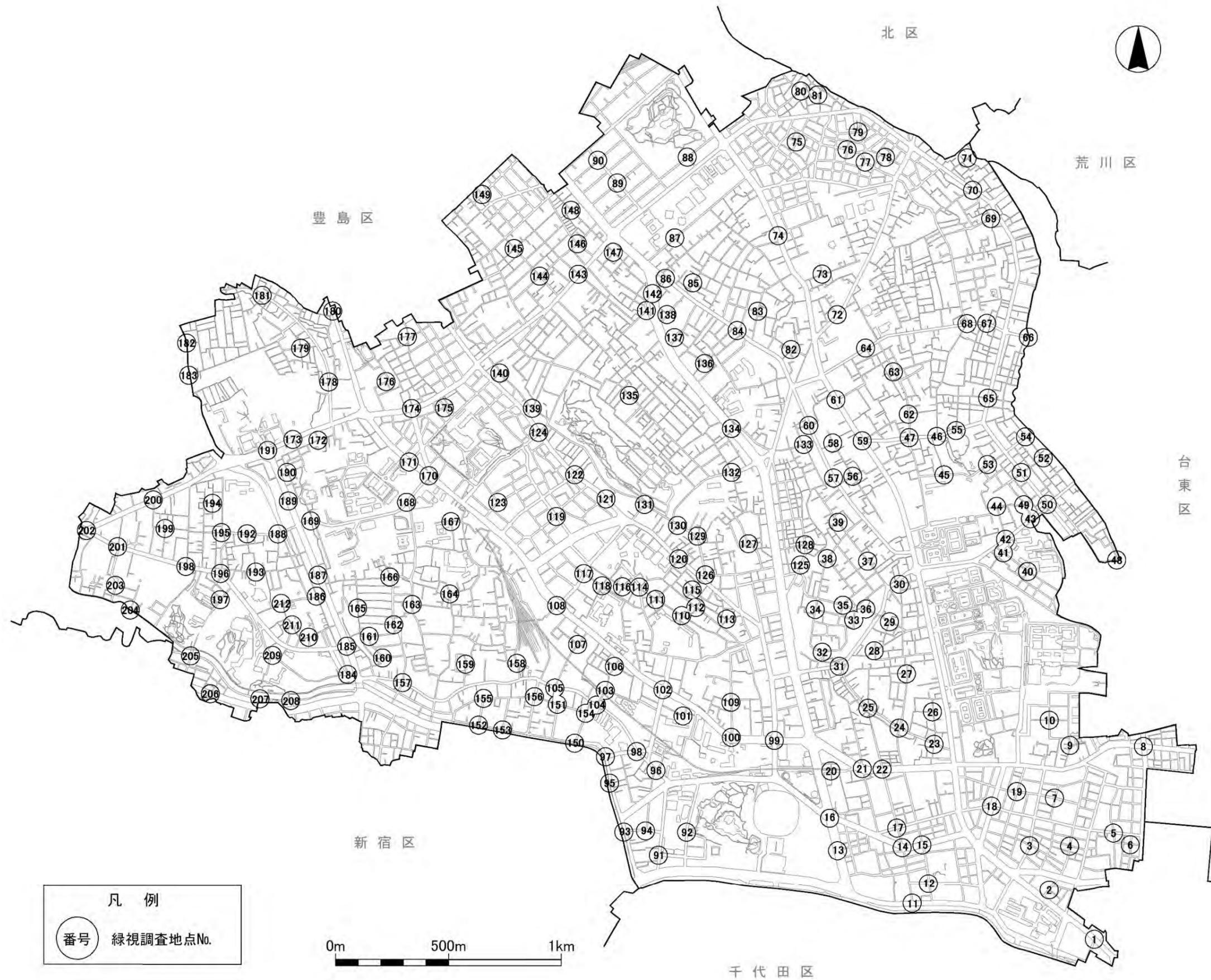
本区の緑視率の平均は 14.2% である。近年、調査している区が徐々に増えているものの、全体平均よりも緑視地点の効果をみる調査となっている傾向にあり、他区との比較が難しい状態である。周辺区との緑視率の比較を表VI-1 に示す。

表VI-1 周辺区との緑視率の比較（参考）

	緑視率 (%)	調査年度
文京区	14.2	平成30年
渋谷区	24.7	平成25年
練馬区	22.7	平成28年
台東区	21.8	平成30年
杉並区	21.3	平成29年
新宿区	18.1	平成28年
港区	16.6	平成28年
江東区	15.4	平成25年
足立区	14.6	平成29年

注：緑視率は、定点観測結果の平均値であり、区全体の状況を反映するものではない。また、他区では特別に決められた調査地点での緑視率のため、単純な比較はできない。





図VI-1 緑視率の調査地点



### 3. 緑視率の特徴

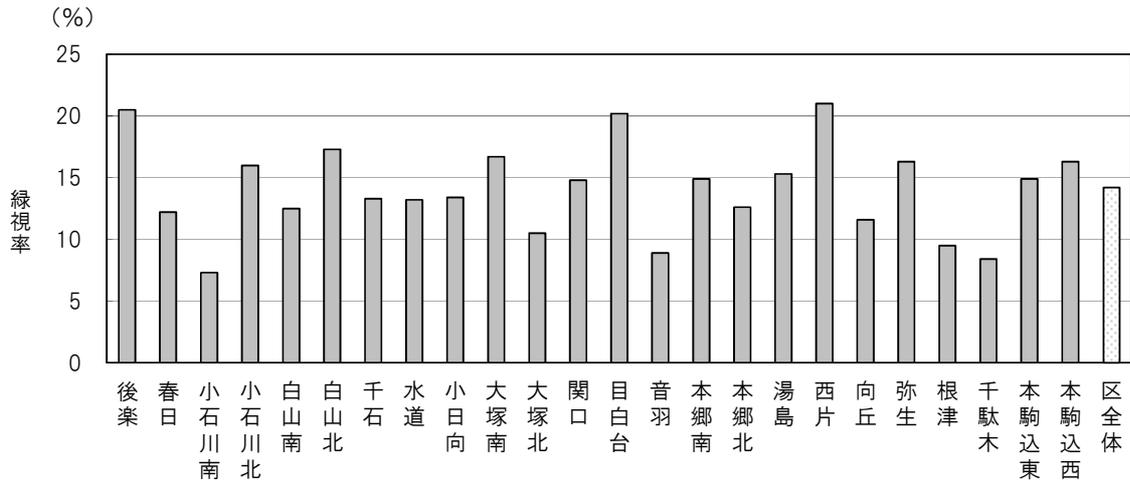
#### 3-1. 区域別、町丁目別の緑視率

一般区域における区域別、町丁目別の緑視率の平均値を表VI-2、図VI-2、図VI-3に示す。また、区域別の緑視率分布図を図VI-4に示す。

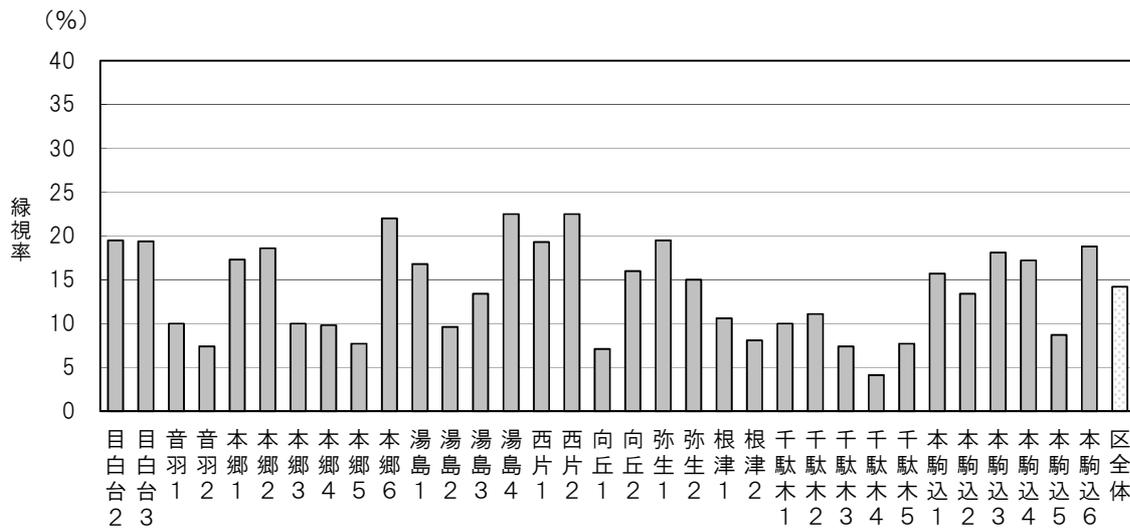
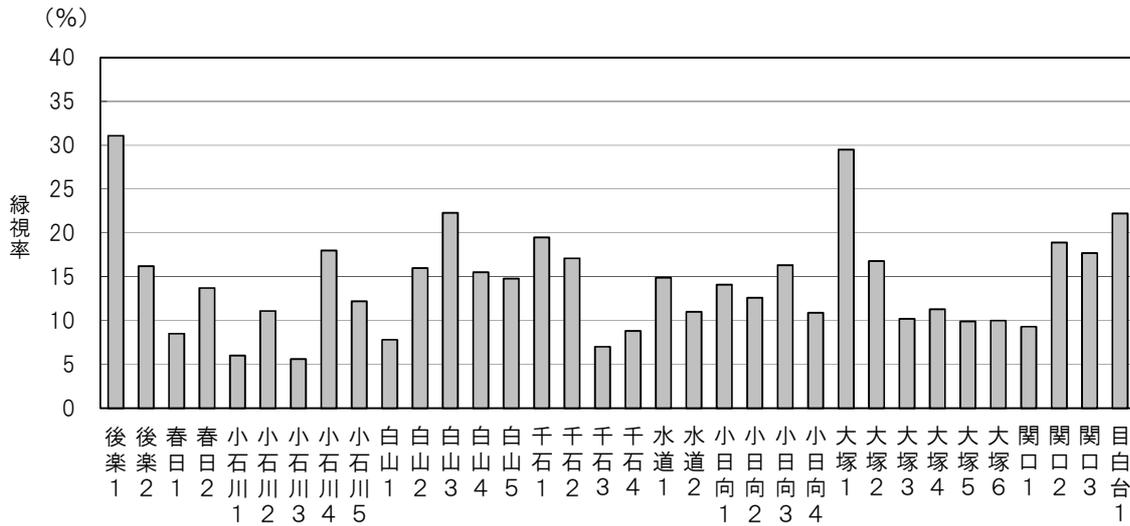
表VI-2 緑視率の区域別町丁目別平均値

区域	町丁目	緑視率 (%)	区域	町丁目	緑視率 (%)
1 後楽	後楽1	31.1	13 目白台	目白台1	22.2
	後楽2	16.2		目白台2	19.5
		20.5		目白台3	19.4
2 春日	春日1	8.5			20.2
	春日2	13.7	14 音羽	音羽1	10.0
	12.2	音羽2		7.4	
3 小石川南	小石川1	6.0			8.9
	小石川2	11.1	15 本郷南	本郷1	17.3
	小石川3	5.6		本郷2	18.6
	7.3	本郷3		10.0	
4 小石川北	小石川4	18.0			14.9
	小石川5	12.2	16 本郷北	本郷4	9.8
	16.0	本郷5		7.7	
5 白山南	白山1	7.8		本郷6	22.0
	白山2	16.0			12.6
6 白山北		12.5	17 湯島	湯島1	16.8
	白山3	22.3		湯島2	9.6
	白山4	15.5		湯島3	13.4
	白山5	14.8		湯島4	22.5
	17.3			15.3	
7 千石	千石1	19.5	18 西片	西片1	19.3
	千石2	17.1		西片2	22.5
	千石3	7.0			21.0
	千石4	8.8	19 向丘	向丘1	7.1
	13.3	向丘2		16.0	
8 水道	水道1	14.9			11.6
	水道2	11.0	20 弥生	弥生1	19.5
	13.2	弥生2		15.0	
9 小日向		13.4			16.3
	小日向1	14.1	21 根津	根津1	10.6
	小日向2	12.6		根津2	8.1
	小日向3	16.3			9.5
小日向4	10.9	22 千駄木	千駄木1	10.0	
	13.4		千駄木2	11.1	
10 大塚南	大塚1		29.5	千駄木3	7.4
	大塚2		16.8	千駄木4	4.1
	大塚3		10.2	千駄木5	7.7
	16.7			8.4	
11 大塚北	大塚4	11.3	23 本駒込東	本駒込3	18.1
	大塚5	9.9		本駒込4	17.2
	大塚6	10.0		本駒込5	8.7
	10.5			14.9	
12 関口	関口1	9.3	24 本駒込西	本駒込1	15.7
	関口2	18.9		本駒込2	13.4
	関口3	17.7		本駒込6	18.8
	14.8			16.3	
			区全体		14.2

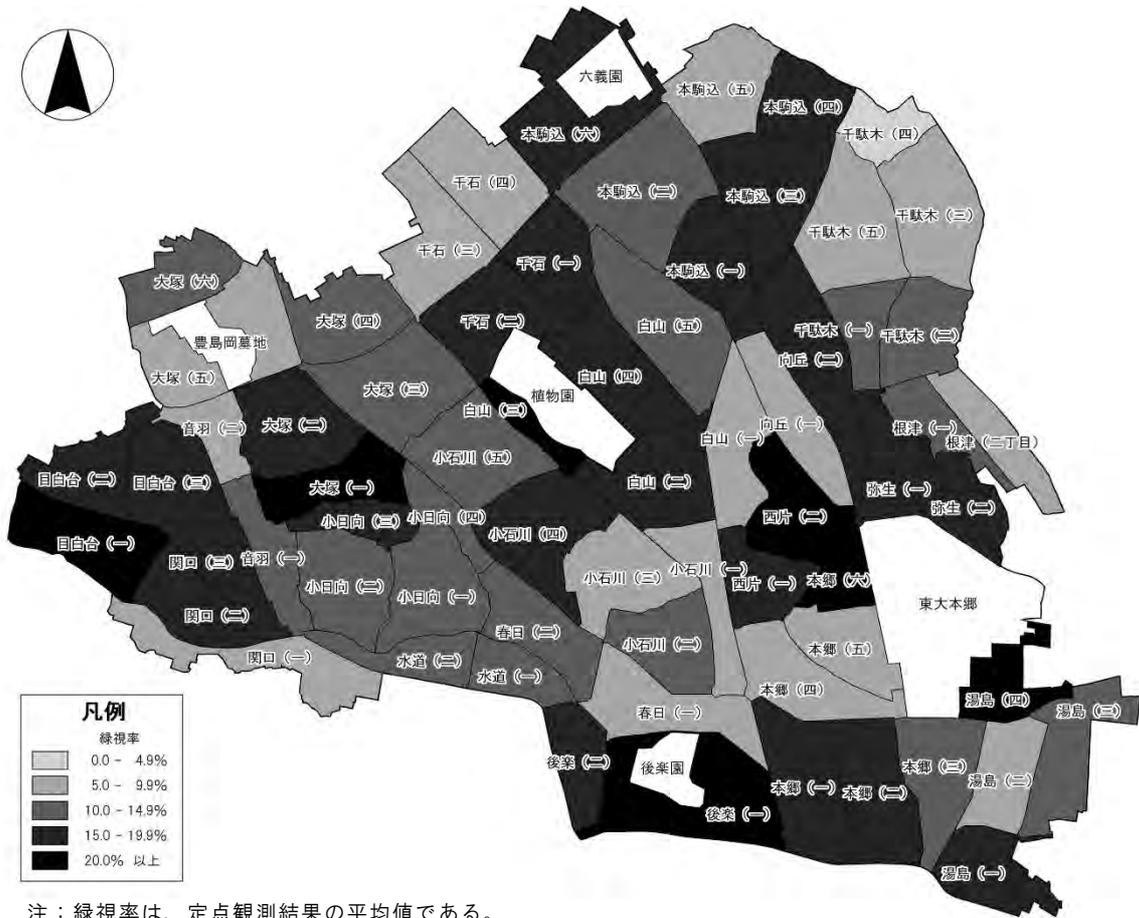
注：特別区域には調査地点を設定していない。



図VI-2 区域別緑視率（平均値）



図VI-3 町丁目別緑視率（平均値）



注：緑視率は、定点観測結果の平均値である。  
特別区域には、調査地点を設定していない。

図VI-4 緑視率分布図

- 緑視率の高い区域（上位 5 位）：西片、後楽、目白台、白山北、大塚南
- 緑視率の低い区域（下位 5 位）：小石川南、千駄木、音羽、根津、大塚北

区域別緑視率では、西片、後楽、目白台、白山北、大塚南の順で緑視率が高く、小石川南、千駄木、音羽、根津、大塚北の順で低い緑視率となっている。緑視率のもっとも高い西片（21.0%）ともっとも低い小石川南（7.3%）では 13.7 ポイントの開きがあり、区全体の緑視率（14.2%）に対して、それぞれ 7 ポイント程度の差が生じている。

西片は閑静な住宅地が広がり住宅の樹木が多いところであり、後楽は大きな建物の緑地、公園、街路樹の多い地区である。目白台、白山北、大塚南は公園、学校等施設のまとまった緑地に恵まれているところである。

一方、緑視率の低い小石川南、千駄木、根津等は小規模住宅が狭隘道路を挟んで林立しており、緑化スペースが少ない。また、道路が狭いために街路樹が少ないことも影響しており、前回調査時より減少している。

- 緑視率の高い町丁目：後楽 1 丁目、大塚 1 丁目、湯島 4 丁目、西片 2 丁目  
白山 3 丁目
- 緑視率の低い町丁目：千駄木 4 丁目、小石川 3 丁目、小石川 1 丁目、千石 3 丁目  
向丘 1 丁目

町丁目別緑視率では、後楽 1 丁目、大塚 1 丁目、湯島 4 丁目、西片 2 丁目、白山 3 丁目の順で緑視率が高く、千駄木 4 丁目、小石川 3 丁目、小石川 1 丁目、千石 3 丁目、向丘 1 丁目の順で緑視率が低い結果となった。

後楽 1 丁目（31.1%）や大塚 1 丁目（29.5%）は、区全体（14.2%）との比較でも突出して高く、後楽 1 丁目ともっとも低い千駄木 4 丁目（4.1%）の差は 27.0 ポイントの開きがある。

### 3-2. 土地利用と緑視率

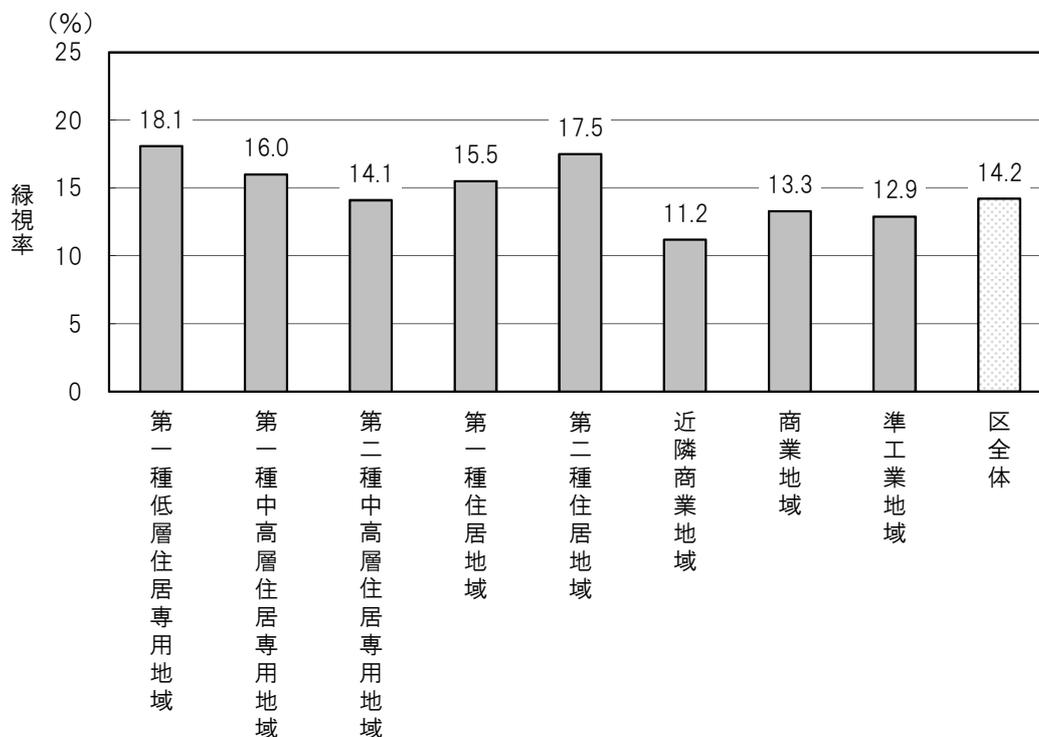
用途地域別の緑視率の平均値を表VI-3、図VI-5に示す。

第一種低層住居専用地域（18.1%）、第二種住居地域（17.5%）、第一種中高層住居専用地域（16.0%）、第一種住居地域（15.5%）と住居系の用途で緑視率が高くなっている。

また、住居系では第二種中高層住居専用地域（14.1%）のみが区全体の緑視率（14.2%）を下回っており、住居系以外の地域では、商業地域（13.3%）、準工業地域（12.9%）、近隣商業地域（11.2%）とそれぞれ区全体を下回っている。

表VI-3 緑視率の用途地域別平均値

用途地域	緑視率 (%)
第一種低層住居専用地域	18.1
第一種中高層住居専用地域	16.0
第二種中高層住居専用地域	14.1
第一種住居地域	15.5
第二種住居地域	17.5
近隣商業地域	11.2
商業地域	13.3
準工業地域	12.9
区全体	14.2



図VI-5 用途地域別緑視率 (平均値)

#### 4. 緑視率の経年変化

平成 7 年、平成 16 年、平成 24 年、平成 30 年の調査における緑視率の経年変化について区域ごとに集計した結果を表VI-4、図VI-6に示す。

##### ○ 平均緑視率の経年変化

平成 7 年	:	15.4%
平成 16 年	:	16.0%
平成 24 年	:	14.7%
平成 30 年	:	14.2%

平成 30 年の平均緑視率は、前回と比較して 0.5 ポイントの減少であり、前々回との比較では 1.8 ポイントの減少となっている。

区域別緑視率の前回との比較では、関口、向丘、小石川北、目白台で 2 ポイント以上の減少がみられた。また、千石、水道、白山南で 1 ポイント以上の増加がみられた。減少した区域では、宅地内の樹木の伐採や道路拡幅工事による街路樹の撤去が大きく影響している。また、増加した区域では、密集した住宅がマンション等に建て替わり、緑化計画により敷地の一部が緑地となり、樹木や植栽の生長が緑視率を高める要因となっている。

一方、連続して減少している区域は、関口、大塚南、向丘、千駄木であり、調査地点において、道路が狭く、植栽するスペースがないことが、緑視率の低下につながっていると推測される。

○ 緑視率が連続して増加している区域：千石、本郷南

○ 緑視率が連続して減少している区域：関口、大塚南、向丘、千駄木

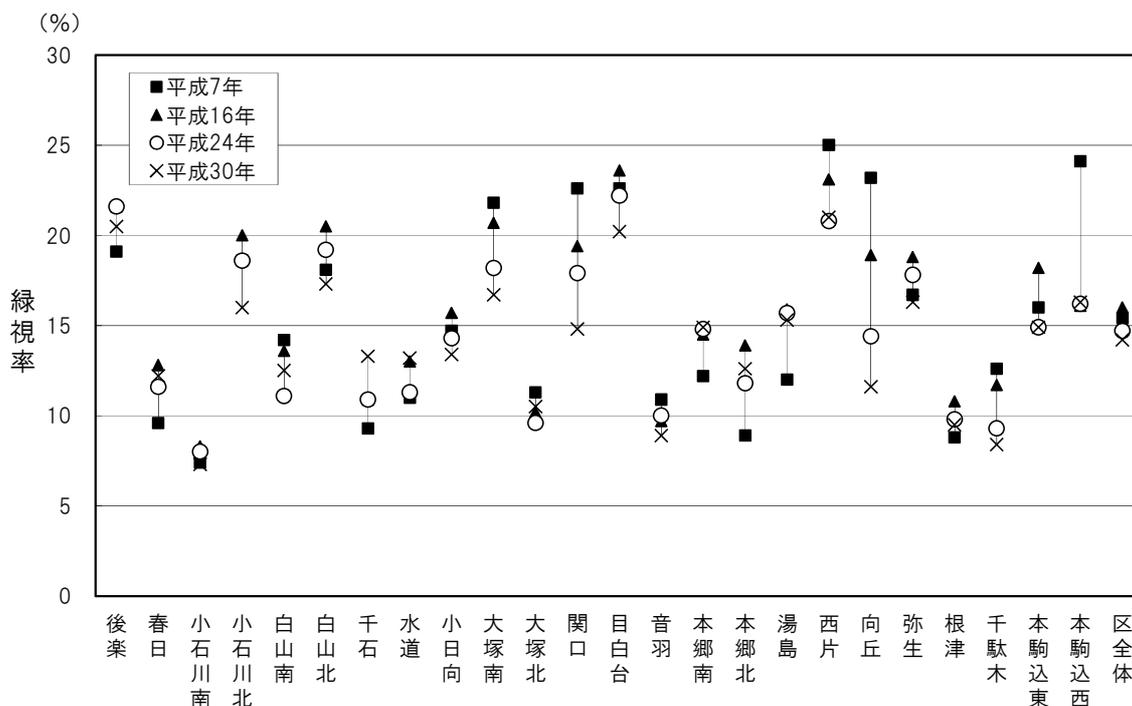
表VI-4 区域別緑視率の経年変化

単位：(%)

No.	区域	平成7年	平成16年	平成24年	平成30年	増減
1	後楽	19.1	21.6	21.6	20.5	-1.1
2	春日	9.6	12.8	11.6	12.2	0.6
3	小石川南	7.4	8.3	8.0	7.3	-0.7
4	小石川北	18.6	20.0	18.6	16.0	-2.6
5	白山南	14.2	13.6	11.1	12.5	1.4
6	白山北	18.1	20.5	19.2	17.3	-1.9
7	千石	9.3	10.9	10.9	13.3	2.4
8	水道	11.0	13.0	11.3	13.2	1.9
9	小日向	14.7	15.7	14.3	13.4	-0.9
10	大塚南	21.8	20.7	18.2	16.7	-1.5
11	大塚北	11.3	10.2	9.6	10.5	0.9
12	関口	22.6	19.4	17.9	14.8	-3.1
13	目白台	22.6	23.6	22.2	20.2	-2.0
14	音羽	10.9	9.7	10.0	8.9	-1.1
15	本郷南	12.2	14.5	14.8	14.9	0.1
16	本郷北	8.9	13.9	11.8	12.6	0.8
17	湯島	12.0	15.9	15.7	15.3	-0.4
18	西片	25.0	23.1	20.8	21.0	0.2
19	向丘	23.2	18.9	14.4	11.6	-2.8
20	弥生	16.7	18.8	17.8	16.3	-1.5
21	根津	8.8	10.8	9.8	9.5	-0.3
22	千駄木	12.6	11.7	9.3	8.4	-0.9
23	本駒込東	16.0	18.2	14.9	14.9	0.0
24	本駒込西	24.1	16.1	16.2	16.3	0.1
	区全体	15.4	16.0	14.7	14.2	-0.5

注1：緑視率は、定点観測結果の区域別平均値である。

注2：増減は、平成24年と平成30年を比較。



注：緑視率は、定点観測結果の区域別平均値である。

図VI-6 区域別緑視率の経年変化

